

海洋教育パイオニアスクールプログラム「海とつながる 2019」

9年生 塩浜ふるさと防災科



「塩浜ふるさと防災科」公開研究会

～ 8・9年生 ゼミの学習成果 を 堂々発表



11月21日（木）、後期校舎体育館にて以下の通り「塩浜ふるさと防災科」公開研究会が開催された。

- ① 防災講演会 11:30～12:30 (※5～9年生対象)
講師：千葉科学大学危機管理学部 教授 藤本一雄 先生
「自他を大切に、命を守る防災教育」
- ② 「塩浜ふるさと防災科」ゼミ発表会 14:00～16:30
講師：市川市立大洲小学校 校長 松井 聡 先生

【講演内容】

- ・市川市の自然災害 ・地震の被害
- ・地震時にとるべき行動 ・液状化の被害
- ・生活困難に備える ・津波の被害
- ・洪水の被害 ・東日本大震災被災者の声
- ・何を守るかことが大切か

午後に行われたゼミ発表会では、県教育委員会、教育長はじめ市教育委員会、市内安全担当、県内からたくさんの方を迎え、盛大な発表会となった。8・9年生は、6つのグループに分かれて、ゼミで取り組んできた内容を堂々とプレゼンした。どのグループも充実した取り組みと質の高いプレゼンができ、昨年よりもステップアップした。専門家のゲストティーチャーの活用をすることで、意欲的に学習に取り組み、より深い学びにつながった。自ら考え課題解決を図ったことや情報を収集・選択し、より分かりやすい方法で表現していくことも塩浜学園ならではの教育活動である。

【生徒代表 講師へお礼の言葉より】

私達の住んでいる市川市で、どのような災害が起き、どのような点に気を付ければいいのか、考えることがたくさんありました。地震クイズでは、最近1か月で約1万3千個もの地震が起きていた事実には驚きました。また、地震がどのような原理で起きているのか詳しく知ることができ、**防災の大切さをより深く知ることができました。**

地震はいつどこで起きるか分かりません。Life Lineが壊れてしまって生活困難な状態になることもあります。私もこれからの生活の中で、防災を意識していきたいと感じました。

私達は、「塩浜ふるさと防災科」の授業で防災について学んでいます。先生のお話にあった「**防災では何を守るかことが大切か？**」を考えながら、これからは学習していきたいです。



「塩浜ふるさと防災科」ゼミ発表会の様子



8,9年生「塩浜ふるさと防災科」ゼミの生徒感想と教師の思い

ゼミを通して学んだこと・生徒の感想

教師の思いや願い・手立て

A: 防災科「救命講習、防災士などの資格取得」

- 特に学べてよかったことは、救急救命講習を受けたことです。心肺蘇生法や人工呼吸の仕方などを学べて、できるようになったので、これからは人が倒れているのを見かけたら、しっかりと活かせるようにしたいです。
- 今まで倒れている人がいたら、119番通報をすることぐらいしかできませんでしたが、人口呼吸・胸骨圧迫・AEDの使い方を覚えたので良い経験になりました。AEDの場所などを普段から見つけて覚えておくようにしようと思いました。

- 養護教諭による実技実習から、応急処置の大切さを学び、いざという時に率先して行動できるようになってほしい。
- 救急隊・消防隊の経験をもつ職員の講話から、実際の現場での活動、命を守るために必要な知識、命を守ることの難しさ・尊さを伝えたい。
- 人形やAEDを使用した具体的な実技講習で、救急救命の技能を高めたい
- 発表会に向けて仲間と協力して取り組むことで、人にわかりやすく伝えること、場を「魅せる」こと、「命」を守る行動を伝えることができるようにしたい。

B: 防災科「自分たちで企画・運営する避難訓練」

- 班員が『協力して、パワーポイントにまとめ、発表でき、聞き手にもうまく伝えることができたのでよかったです。初めてのゼミで、楽しくやりがいがあると感じました。一から自分達で作りに上げてきたことは大切だと思います。
- たくさんの人が見に来たので、しっかりと話せるか不安でした。始まるとみんなが暖かく見てくれたので、緊張せず発表できました。一人ひとりが原稿を見ずに大きい声で話せてよかったです。

- 今までに自分が体験してきた避難訓練や他校の避難訓練を参考にしながら、またゲストティーチャーの話を聞くことによって自分たちの住む地域ではどのような避難訓練を企画し運営していけばいいかを考えられるようにしたい。
- 自主的に調べたり、お互いに意見を出し合ったりして、一人一人が多く活躍できる場を設定したい。
- 避難訓練当日には、訓練の中心となり計画に沿った指示や行動をとれるようにする。下級生に対し指示や誘導などが的確に行い、全校生徒がスムーズに訓練に参加できるよう細かな計画が立てられるようにしたい。

C: 防災科「災害に備えて、自分たちでできること」

- 災害時の対応について、いろいろな視点から見た対処法を学べました。他の授業では学ぶことができない防災について講演なども聞いて、より深く学ぶことができました。
- 災害時にどのような行動をとればいいのかを学ぶことができました。本所防災館の体験学習がよかったです。昨年の反省を生かして、よく話し合いをし、しっかりした内容の発表ができました。

- ゲストティーチャーの話を聞くことにより、次の災害に備え、自分たちでできることは何かについて考えられる生徒になってほしい。
- グループ活動を毎回取り入れ、自主的に調べたり、お互いに意見を出し合ったりして、一人一人が多く活躍できる場を設定したい。また、発表の場ではそれぞれの役割分担をはっきりとして、伝えたい内容がわかりやすく伝えられるように支援したい。
- 防災体験施設の「本所防災館」の見学を通して、自ら追及してきた学びと、どう結びついており、またどの部分がまだ足りないところだったかについて理解を深めさせたい。

D: ふるさと科「三番瀬を守るために」

- 三番瀬について、今まで調べてきたことだけではなく他の仲間の発表を聞くことで、新たな情報を得ることができました。身近にある三番瀬を認識することができました。協力することと自分が伝えたいことをしっかりと伝える大切さを学べました。
- 以前は興味もなく知識もなかった三番瀬について、詳しくなりました。海洋ごみ問題も自分の知識とも結びつけられるようになりました。2020年のオリンピックで、海が汚かったら意味がありません。海をきれいにしていく必要があると思いました。

- 三番瀬環境観察館の見学や清掃活動など、生徒の興味関心を引き出すための体験的な活動を大切に学習に取り組んでいく。
- 専門家のゲストティーチャーの活用を行うことで、意欲的に学習に取り組ませ、より深い知識を身につけさせたい。
- 下級生や上級生などに発表する活動を設定することで、情報を収集・選択し、より分かりやすい方法で表現できるようにしたい。
- 他のグループの発表を聞くことで、ふるさとや防災について今後の自分たちでできることを考える機会にしていきたい。また、友達と学ぶことの良さや大切さに気付いてほしい。

E: ふるさと科「塩浜地区の少子高齢化対策」

- 少子高齢化は調べる前から少し知っていたが、実際にゼミで調べてみると、思った以上に深刻で大変な問題だということが分かりました。これからの日本の問題、日本の未来について深く考えることで、自分自身の社会への見方が変わりました。
- これから何かについて調べ、発表する機会があれば、話し合いをしていろいろな人の考え方にも触れたいと思います。少子高齢化の問題は身近な問題であることに気づきました。

- 老人ホーム等の外部機関を訪問して生徒の興味や関心を引き出し、知識理解を深めさせたい。
- 積極的に専門家をゲストティーチャーとして招聘することにより、意欲的に学習に取り組ませたい。
- 下級生に紹介する活動を設定することで、正しい情報を収集・選択し、相手意識を持って、適切な表現方法を選択できるようにしたい。
- 情報収集や発表資料の作成に協力して取り組むことで、仲間と学ぶことの良さ、仲間の大切さに気づかせたい。そのためにグループ活動を大切にしたい。

F: ふるさと科「地域行事の企画運営」

- 一人ひとりが役割を持ち、全員で協力してハウインパーティーを成功させることができました。この企画は塩浜学園でしか経験できないとても貴重なものだと思います。この企画を通して、地域の人たちとの関わりを大切にしていきたいと感じました。
- 会場へあいさつに行ったり、まとめたりなど他校ではなかなかできないことを経験できました。他学年も含めて多くの人と交流することができたので、一緒に学んだ仲間や会場を貸してくださった「みどり to ゆかり」さんにも感謝しかないです

- ゲストティーチャーの話を聞くことにより、地域活性化に貢献できるように、自分たちならどのような企画をし、運営できるかを考えられるようにしたい。
- 役割分担を明確にし、それぞれが自分の仕事に意欲的に取り組めるようにしたい。また、グループを組む時に、異学年が交流できるよう配慮したい。
- 地域行事が決まったら、地域の人たちとうまく交流できるように、支援していきたい。また、当日のイベントが成功するために、必要なことを事前に教師が考え、サポートすることにより、達成感を味わわせたい。